曾於文藝

うたごよみ

俳句

大陽俳句会

大落暉入れて植田の華やぎぬ

福村 よう子

海の日や七ツ鉦の父忍ぶ

鍋山 美智子

夕暮の風鈴の音の幽けしや

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

二泊三日の旅装解きみる部屋ぬちに

三匹の猫の出迎へもなし

森岡 ちどり

何てこと子猫も生まれ五匹ほど

保護猫の世話ままならぬかな

長倉 佳津子

不祥事の教師最多のニュースあり

「子は宝」といふ思ひはいづこ

宝蔵 弘二

大陽短歌会

オレンジと赤に塗られて「しまむら」は

「ダイレックス」へと転身はかる

広川 ミドリ

田の畦にペットボトルの風車

草刈る吾れにも夕風吹きぬ

安藤 フチ子

田へ向かう小川のせせらぎたえまなく

ヒメボタルはとぶ孫の身丈に

竹内 娃子

財部短歌会

訪問のたびに多弁なる高齢者

四方山話に珍聞もあり

児玉 次雄

老いぬれば繰り言いつしか多くなり

時を忘れて受話器離さず

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

孫達^{まごたち}が 走^{はし}い回^{まわ}せえ

地震^{なえ}んごちや

桐野 奈世

地震^{なえ}が揺^ゆつ 逃^にげかたよつめ

テレビ先^{まへ}つ

西留 辰子

震度^{しんどう}4 ひつたまがった

ごごし地震^{なえ}

山中 ミツどん

肥満^{だんべかか}女 ダンス教室^{きょうしつ}ちや

地震^{なえ}が揺^ゆつ

胡摩^{こま}ケ野 べぶまつ

強^つえ地震^{なえ}で そがまし茶碗^{ちawan}

ちんがらつ

高瀬 夜舟

地震^{じしん}津波^{つな}ん 放送^{ほうそう}響^{こえ}

避難^{にげん}大騒^{おほさわ}動^{どう}

浜田 一好